

令和 6 年度長久手市地域包括ケア推進協議会 会議録	
開催日時	令和 7 年 3 月 1 9 日（水） 午前 1 0 時 0 0 分から午前 1 1 時 4 0 分まで
場 所	長久手市役所 第 5 会議室
出席者氏名 （敬称略）	1 4 名中 9 名出席 会長 田川佳代子 副会長 加藤圭子 委員 松永昌宏 委員 久世明帆 委員 小幡匡史 委員 見田喜久夫 委員 大須賀豊博 委員 中村紀子 委員 井上みゆき （事務局） 福祉部長、福祉部次長、長寿課長、いきいき長寿係長、 介護保険係長、同係主任 1 名
欠席者氏名 （敬称略）	委員 牛田享宏 委員 福井正人 委員 平井佳彦 委員 細萱健一 委員 唐澤美穂
審議の概要	1 会長、副会長の選出について 2 第 8 期高齢者福祉・介護保険事業計画（令和 3 年度～令和 5 年度）の評価結果の報告 3 第 9 期高齢者福祉・介護保険事業計画（令和 6 年度～令和 8 年度）の評価シートについて
公開・非公開の別	公開
傍聴者人数	0 人
議事内容	別紙のとおり

1 あいさつ

2 長久手市地域包括ケア推進協議会について

○事務局

（協議会の概要及び第10期高齢者福祉・介護保険事業計画の策定スケジュールについて、資料1及び資料2をもとに説明）

3 【議題1】会長、副会長の選出について

○事務局

長久手市地域包括ケア推進協議会設置要綱第5条に基づき、会長を委員の互選により選出したい。

○委員

田川委員が適任と考える。

○事務局

他に意見がなければ田川委員にお引き受けいただきたい。

（異論なし）

では、会長は田川委員に決定する。副会長は会長の指名により選出したい。

○田川会長

加藤委員を指名する。

○事務局

では、副会長は加藤委員とする。

○田川会長（あいさつ）

介護保険制度は走りながら考える状況であった。エビデンスに基づいた政策構築が重要。持続可能な介護保険制度の計画策定について、みなさまに協力をお願いしたい。

○加藤副会長（あいさつ）

高齢者人口の増加の中で、高齢者がいつまでも元気で自分らしい生活を続けられるような計画を意識し、策定に関わっていきたい。

4 【議題2】第8期高齢者福祉・介護保険事業計画の評価結果の報告について

○事務局

(資料3-1及び資料3-2をもとに報告)

○委員

75歳から79歳の要介護認定率について、全国平均は11.8%であり、長久手市は9.5%と低い水準である。元気な方が多いと考えられる。

○委員

要介護認定者数が計画を上回った一方で、総給付費が計画を下回っている要因は何か。

○事務局

施設サービスの給付費が計画を下回っていることが全体に影響している。

○委員

軽度者(要支援1・2、要介護1)のサービス利用状況はどのようなか。

○事務局

コロナ禍により、通所系のサービス利用が想定より少なく、訪問系のサービス利用が多い傾向にあると分析している。軽度者の具体的なサービス利用の内訳については現在分析中である。

○委員

コロナ禍を経てサービス利用状況が戻ってきているが、サービス提供側のスタッフ不足が課題。分析においてもそれを念頭におく必要がある。事業所によっては定員を減らしている状況がある。

○委員

相談支援部門においても、人材不足は大きな課題である。

○委員

要支援認定が出ているにも関わらずサービスを利用していない方の割合はどのようなか。

○事務局

約 550 人中 100 人程度がサービスを利用していないことを確認しており、その理由や今後の連携について検討している。

○委員

軽度者は機能訓練型のデイサービス利用が多い印象である。通所が難しい場合は訪問から始めるケースや、福祉用具のみの利用も多い。

○会長

介護保険の給付費通知が、医療保険のようにマイナポータルで確認できるようになる見込みはあるか。

○事務局

将来的には連携されると思われるが、現時点ではまだ運用されていない状況である。

5 【議題3】第9期高齢者福祉・介護保険事業計画の評価シートについて

○事務局

(資料4-1及び資料4-2をもとに説明)

○委員

長久手温泉での高齢者向けの活動が終了することを受け、今後の高齢者の居場所作りについて、企業と連携するなど検討していただきたい。

○事務局

今後も社会福祉協議会等と協力しながら、高齢者の居場所作りを進めていく方針である。シニアクラブ等への働きかけや、動画コンテンツの活用など、様々な選択肢を検討していく。

○委員

一人暮らしで家に閉じこもりがちな高齢者を地域活動にいかに参加させるかという課題がある。地域とのつながりを生むような仕組みが必要ではないか。

○事務局

地域とのつながりの希薄化は市としても課題として認識している。自治会加入率の低下なども影響。人材不足により高齢者も長く働くため、地域との関わりを持つ時間がない現状がある。今後も様々な取り組みを進めていくものの、現時点では明確な解決策がないため、みなさまからもヒントをいただきながら、切り口を見出していきたい。

○委員

医療機関が窓口となり、医師が早期の介護予防につなげる意識を持つことも効果的である。

○委員

健康拠点の設置構想の実現について、引き続き期待すると同時に、実現に向けて協力できることがあればしていきたい。

○委員

民間企業が活動しやすいよう、市や社会福祉協議会も連携していただきたい。

○事務局

必要に応じて市も同席するなど、伴走支援をしていきたい。

○委員

資料４－２の基本目標１の目標値aとbについて、令和４年度の実績と令和７年度の目標値に大きな乖離があるが、理由は何か。

○事務局

令和４年度の実績はコロナ禍の影響を受けたアンケート結果であり、目標値はコロナ禍前の実績を基に設定している。アンケート対象者を変更する予定はない。（目標値aの数値に記載誤りがあり、正しくは48.7%である旨訂正）

○委員

要介護認定者のデータ（KDB等）を事業内容の活用はどう繋げるか。

○事務局

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の中で活用していく予定である。

○会長

名古屋大学との共同研究の成果を評価シートに盛り込む予定か。

○委員

共同研究は始まったばかりで具体的な成果が見えていないため、現時点でのシートへの反映は難しい。

○委員

長久手市のケアプラン点検の取り組みは、ケアマネージャーの意識向上や、勉強会形式での学びの場となっており、マンネリ化ではなく、良い意味で現場に定着している。

○会長

第9期高齢者福祉・介護保険事業計画の評価シートについて、承認してよろしいか。

○委員

(異論なし)

○会長

評価シートについて承認とする。議題は以上。

6 その他

○事務局

次回の開催は令和7年7月を予定。

(閉会)